

「麗しの杜」 周辺を餌場に..!

●春日部麗しの杜にも冬の訪れ!

今朝は足を伸ばして「春日部麗しの杜」(春日部市営・川久保公園の一角)に足を運びました。先週、植栽をお願いした木々を確認するとともに、2年前に植栽した木々の生長を確かめて来ました。公園エントランス部分に植えたヤマザクラ、トチノキ、スダジイの3本は、ガラの多い厳しい足元にもかかわらず伸び伸びと成長していました。【写真①：公園エントランス部分に植えた記念樹3本】



また、公園中央の築山に植えたイロハモミジやコナラなどの木々も枝を伸ばしていました。【写真②：築山の木々、手前が紅葉終盤のイロハモミジ】



●ここでの植栽も2010年10月に中木33本、低木20本、2011年4月には中木5本、そして今回12本の中木を植えることができたので、中木だけで50本の木を植えることができました。地味の悪い築山ですので、成長は遅いものの木々がしっかりと葉を付けてくれていることに感謝します。

公園開設時に植えられた桜などは15年で立派に育っていることを思うと、あと10年すれば立派な杜となってくれるものと期待します。【写真③：古利根川沿いの桜並木(右)】古利根川沿いの遊歩道には案内板【写真④】も整備され、人々を癒やしてくれます。杜もそんな皆さんの癒やしの場になればと期待します。



公園開設時に植えられた桜などは15年で立派に育っていることを思うと、あと10年すれば立派な杜となってくれるものと期待します。【写真③：古利根川沿いの桜並木(右)】古利根川沿いの遊歩道には案内板【写真④】も整備され、人々を癒やしてくれます。杜もそんな皆さんの癒やしの場になればと期待します。



●野田市ではコウノトリの飼育へ

春日部地区浦高会・副会長の根本 崇さん(野田市長、16期)は、野田市政を通じて壮大な事業を展開されています。それは、「コウノトリの放鳥計画」です。6期目の市政運営を任された今年7月の野田市議会で10の政策の一つとして「持続可能な農業の確立と生物多様性の充実」を述べていらっしゃいます。

*

◆持続可能な農業の確立と生物多様性の充実

これまで進めてきた施策をさらに強化し、剪定枝堆肥、もみ殻牛ふん堆肥に加え、稲わら牛ふん堆肥の生産を本格開始し、減化学肥料による野菜づくりを進め、米づくりも始めます。

また、玄米黒酢を使った減農薬米づくりは、この3年間で市の3分の1の水田で行われるまで拡大しています。これを市全体に広げていく考えです。

自然再生の拠点として整備を進めてきた江川地区の水田ビオトープづくりと市民農園の整備をさらに進めます。【写真⑤：コウノトリ、根本市長(中央)】



また、この場所で本年度からコウノトリの飼育を始め、生まれた子供の放鳥を進めます。施設整備、維持管理には、パブリックゴルフ場のプレーフィーに含まれる1回300円の資金を活用して税金を使わずに行います。

なお、飼育経費は、来年度から国の天然記念物関係補助金の対象とすべく現在国と調整中です。

これらの取り組みで、コウノトリも住める農業、化学肥料をできるだけ使わない田んぼで生産された米をアピールし、自然に優しい野田市の農産物のブランド化を進め、農業の生き残りや後継者の育成を図っていきます。

かつて、野田市にも生息し、田んぼの食物連鎖の頂点にいたコウノトリを復活させることにより、環境に配慮したまちづくりをしている自治体であることをアピールし、地域経済の発展と私たちの子や孫の世代までの安全・安心な環境を保障する地域再生のシンボルとしていきます。

【文：のだ市広報、8月1日号(ナンバー1121)】

*

コウノトリの餌場は湿地や田んぼで浅い場所のドジョウやカエル、昆虫を好むそうです。「麗しの杜」の周辺にそんな餌場を作っていきたいものです。